

人生ひとろうまれて人生じんせいが始まるわけですが、全てが縁えんによって結びついています。只、どういう縁が重おもなって、**選ばれた両親から生まれて来たのかは普通判りません。不可思議な事なのです。**赤子は言葉も分からない時から母の乳房ちぶちを求めます。生命の尊さです。歌に演歌あり、艶歌、怨歌、とも呼ばれますが私は縁歌えんかと位置づけています。生まれる為には両親が必要です。歌の両親は作詞家と作曲家です。作詞・星野哲郎さん、作曲・市川昭介さんの一曲に「夫婦坂めおとぎか」があります。都はるみさんが歌いました。縁が重おもなって大変ヒットしたと思っています。自分も大好きな一曲です。自分は歌を聞いているだけで自然と涙が出てくる歌もあります。自分の誕生を思えば、両親に恵まれ母親が無事に自分を生んでくれた事に深い因縁いんねんを感じます。まさに良縁を頂きました。子供が欲しくても恵まれない方も大勢みえます。「生死事大 無常迅速 光陰惜しむべし 時人待たず 人身受難し」とあり、人生「光陰矢の如し」。ましてや、人間として生まれることは非常に稀有けうな出来事だと説明されています。お釈迦様も「夫れ人間の身を受けて 此の世に生まれ来る事は 爪の上端に置ける土」と申されました。生まれれる縁は、一握りも無いのです。お釈迦様の説明によれば、子宝に恵まれない方が多いのもうなずけます。世の中は縁が重なり合つて、物事が成就じょうじゆして行く訳です。**全て縁なしに世渡りはできません。**故に、縁と縁の結び付きが大事です。自分では思慮分別しりょぶんべつが有ると思つても、道が開けるばかりではなく、良縁もあれば、悪縁もあります。娑婆しやばの事ですから、先達の力せんたうを借りなければ成らない時もあります。皆様、良き御縁に恵まれますように、少なからず、**神仏の御加護を頂きましょう。**伊藤古鑑上人は「報恩感謝の生活」の中で「世界の有りとあらゆるものは、ことごとく御仏の尊きお命である」と申されました。殺生についても、「時間を無駄に使えば、時間を殺すことになり、ものを粗末に使えば、ものを殺すことになる」と示しました。私も以前から殺生の一番は生物を殺すことだけでなく、時間を無駄に過ごす。これも殺生になると、説明しています。生死事大 無常迅速しじょうじじたい むじょうじんそくです。

平澤 興きん氏は昭和三十二年に京都大学の総長を勤められたドクターです。脳医学の権威であられた彼の著で「我々は、みんな太陽や水の力、更には人間の力など、大自然と人間の数々の恩恵を受けて、その中で、生かされ生きているのである。」その偽いつわらざる心境を「生かされて 生くるや今日のこのいのち 天地の恩かぎりなき恩」とお詠みになられました。又、こうも言つて見えます。「近頃世の中を見ていると、窒息あつそくするような恐ろしいことばかりのようである。新聞を見ても、雑誌を読んでも、心のあたたまるような記事は、あまりにも少ない。ときには、全く世も末だと思つが、落ちていて周囲を見渡すと、**人々のあまり気づかないところに、善意にみちた人々も決してすくなくないのである。**」と、昭和三十年代初期でこんな状態であった訳で、現在では麻痺まひしてしまつて、ちつとも心は驚おどろかなく成つてしまつたのである。世は稀有けうなり。共に正当せいとうな道行みちゆきを願う。

早くも半年過ぎゆく、善哉よきかな

二年六月一日

善壽界善入院油掛地藏尊